

1. はじめに

広島県医師会長

広島県腫瘍登録委員会委員長

確 井 静 照

広島県腫瘍登録事業は、広島県におけるがんの罹患率および生存率の推計等を行い、これをがん対策推進のための基礎資料とし、もって広島県民の保健衛生の向上に寄与することを目的とし1973年から開始しました。

2010年も生検症例47,477件、解剖症例158件と多数のご登録をいただき、2010年末現在で総登録受付件数は1,010,970件に達しました。

これもひとえに各施設のご理解とご協力の賜であり、感謝申し上げますとともに、今後もなお一層のご協力をお願いするしだいでもあります。

ご承知のとおり、広島県内でがん登録事業が開始されたのは全国でも屈指の早い時期ですが、本会では学術専門団体として、長い歴史を刻んできた公益事業であると位置付けております。われわれが本事業をより発展させることで、県民のがん対策、がん診療に貢献できるものと信じておりますし、広島県が提唱する「がん対策日本一」を支えることができると考えます。

今や日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなる時代と言われています。こうした状況下、医療界では、がん検診の推進とがん医療ネットワーク作りなどが進んでおりますが、これらの施策とともにわれわれの登録データを日常診療の際などにご活用いただければ幸いです。

最後になりますが、広島県腫瘍登録には二次保健医療圏別の登録の不十分さなど課題も残っております。引き続き本事業に対しまして、ご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

このたび、本会では、腫瘍（組織）登録のデータ集計を基に、広島県腫瘍登録報告書No.34を作成いたしました。最初に「グラフで見る2006年のデータ」として、2006年時の広島県内における腫瘍組織登録の結果をまとめました。詳細は「2006年のデータ集計」として添付していますのでご覧下さい。